



上天草市立上天草総合病院

地域医療連携通信

あこ

上天草総合病院理念
信頼される地域医療
基本方針

1. 私達は、患者様中心の医療をめざします。
2. 私達は、地域に根ざしたところあたたかな医療を提供します。
3. 私達は、患者様に快適で安全・安心な医療を提供します。
4. 私達は、退院後も安心して療養できる病院をめざします。
5. 私達は、常に自己研鑽に努め、医療水準の向上に励みます。
6. 私達は、健全な病院経営をめざします。

上天草市立上天草総合病院 地域医療支援部(直通)

電話:0969-54-7373 FAX:0969-62-1547

住所:866-0293 熊本県上天草市龍ヶ岳町高戸1419-19

電話:0969-62-1122(代) FAX:0969-62-1546(代)

URL: <http://www.cityhosp-kamiamakusa.jp/>Eメール: kamiama@cityhosp-kamiamakusa.jp

発行責任者:地域医療支援部長 細川 貴規



新年のご挨拶

上天草市病院事業管理者 船曳 哲典



あけましておめでとうございます
 昨年は皆さまのご理解とご協力により、円滑な病院運営ができたことを心よりお礼申し上げます。本年も引き続き、皆さまのご指導とご支援をお願いいたします。

さて医局の壁のカレンダーを新しいカレンダーに張り替えると気持ちも改まるような気がします。皆様は新年をいかがお過ごしでしょうか。

昨年、上天草総合病院は創立60周年を迎え、堀江隆臣市長、桑原千知市議会議員をはじめ、日ごろから当院を応援してくださっている皆さまをお招きして記念式典を行いました。また当院に33年間勤務した初代病院事業管理者 樋口先生の記念講演会、60周年記念院内学会、大運動会、文化祭を挙行了しました。60周年記念誌もまもなく発刊の予定です。

コロナ感染症が5類に移行して(2023年5月)1年半が経過し、病院は「平常運転」に戻りました。コロナウイルスの流行はすべての人の仕事と生活を脅かす大事件でしたが、病院職員全員がひとつにまとまり地域の医療機関としてコロナ患者さんの対応や治療に取り組むことができて、その意味ではとても良い経験でした。

コロナ流行を契機に業務改善やデジタル化が進んだ企業は多いと聞いています。病院においても病棟再編が進行中で、それぞれの患者様のニーズにあわせた医

療サービスが提供できるよう検討を重ねているところです。また昨年は診療報酬制度が大幅に改定されたため、新しく診療報酬対策委員会を立ち上げ、適切な診療報酬請求を行うために、毎月厳しいレセプトチェックを行っています。

病院運営に一番大きく影響するのが住民人口の減少です。令和元年(2019年)3月の上天草人口は27,037人、令和6年(2024年)3月の人口は23,995人でした。わずか5年で11.3%の人口が減少しています。人口減少はほとんどすべての業種、業態において深刻な問題になっていますが、当病院も「人口減少下でも持続可能な病院」に変わっていく必要があります。人口減少地域における病院経営に「王道」はなく、すべての試みが「社会実験」とならざるを得ません。経営改善についてはあらゆる方策を検討し、慎重かつ大胆に実行する覚悟が必要です。

病院でも働き方改革が進んでいます。残業時間の上限規制を導入し、年次有給休暇の取得(年間5日以上)を進めています。2020年より会計年度任用職員の制度がスタートし、従来の制度とくらべ、正規職員との待遇面での差が少なくなりました。また2024年度から定年年齢の段階的引き上げと新たな再任用制度が始まりました。制度はできたものの、運用については課題が残っており、病院をあげてワークシェアリングの精神で取り組んでいきたいと思っております。

新年のご挨拶

病院長 脇田 富雄



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は格別のご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。地域の皆様の温かいご支援のおかげで、上天草総合病院は昨年、開院から60周年という長きに渡る歴史を刻むことが出来ました。そして、今年は61年目となる新たな年を迎えています。この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

この美しい海に囲まれた私たちの地域は、古くから人々の暮らしと深く結びつき、文化と伝統を育んできました。しかし、近年は少子高齢化や都市部への人口流出が進み、地域社会の維持が困難になりつつあるという厳しい現実も突きつけられています。特に医療の分野においては、医師や看護師不足、医療機関の経営悪化など、多くの課題を抱えています。当院も例外ではなく、人員確保や財政状況の悪化など、様々な困難に直面しています。しかし、このような状況だからこそ、地域の皆様の健康を守る最後の砦として、その使命を全うするため、職員一同、一丸となって邁進していく所存です。

ご存知の通り、私たちの地域は少子高齢化の波が全国に先駆けて押し寄せており、医療を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。高齢化に伴う慢性疾患の増加、医療ニーズの多様化、そして担い手不足は、私たちが直面する大きな課題です。特に医師、看護師をはじめとする医療従事者の不足は深刻で、一人ひとりの負担が増大している現状は否めません。限られた人員で質の高い医療を提供し続けるためには、業務の効率化、働き方改革を更に推し進め、職員一人ひとりが安心して働き続けられる環境づくりが急務です。

また、高齢化が進む中で、在宅医療、介護施設との連携強化、そして地域住民の健康意識の向上など、病院の垣根を越えた多職種連携による包括的な地域医療体制の構築が不可欠です。これらの課題を踏まえた取

り組みが必要と考えます。

一つは、医療の質と安全の更なる向上です。医療技術の進歩は目覚ましく、私たちは常に最新の医療知識、技術を習得し、患者様に最適な医療を提供しなければなりません。院内研修の充実、外部研修への積極的な参加を促し、医療の質の向上に努めると共に、医療安全対策にも万全を期し、患者さんに安心して医療を受けていただける環境を維持していく必要があります。

続いて、地域包括ケアシステムの構築・強化です。訪問看護ステーション、介護施設との連携を更に強化し、切れ目のない医療・介護サービスの提供を目指すことが必要です。地域の医療機関との連携も強化しつつ、患者さんの状態に合わせた適切な医療機関への紹介をスムーズに行うよう努めていく必要があります。また、地域住民向けの健康教室や講演会などの開催を行い、健康寿命の延伸に貢献することも必要かと思われれます。

さらには、働きがいのある職場環境づくりです。職員一人ひとりがやりがいを感じ、安心して働き続けられるよう、労働時間管理の徹底、休暇取得の促進、そして柔軟な勤務体制の導入の検討が大切かと考えます。多職種間のコミュニケーションを円滑にし、チーム医療を推進することで、個々の負担軽減と同時に、より質の高い医療提供体制の構築を進めることも大切だろろうと思います。職員の育成にも力を入れ、職員それぞれの成長を支援することで、将来にわたって地域医療を支える人材を育成することも必要です。

これらの目標達成のためには、職員一丸となって取り組む必要があります。皆様には、引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとって、そして地域全体にとって、健やかで実りある一年となりますよう心より祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

令和7年正月

研修会・勉強会の行事予定表

1月8日(水)	糖尿病教室 糖尿病性神経障害について	14:00～ 当院6階講堂
1月17日(金)	がんサロン	13:30～ 当院6階講堂
1月24日(金)	心臓リハビリテーション教室 心肺蘇生法について	14:30～ 当院6階講堂

新年のご挨拶

看護部長 山中 小百合



謹んで、新年のお喜びを申し上げます。当院は、昨年60周年を迎えることができました。これも関係機関の皆様や地域の方々のご支援のおかげだと思っております。改めて日々のご支援に感謝いたします。

さて、コロナ感染症との付き合いも長くなり、皆さん上手く付き合っているようになったのではないのでしょうか。昨年はコロナ禍以前にも増して、各地でのイベントが開催されたり、旅行される方も増えたりと、元気な日常が戻ってきました。病院でも長く続いた面会禁止も制限へと緩和することができました。大切な人と直接会って出かけたり、話したりすることは、とても楽しく、大事な時間で心が豊かになることだと思います。患者さんも面会があれば当たり前です

が、笑顔が増え、回復も促進され、いい影響になると思います。改めて、コミュニケーションの必要性や大切さを考える機会となりました。

当院は、今年61周年となります。人間でいうなら還暦を迎え「もう一度生まれ変わって出直す」という意味になります。高齢化率が高く、人口減少が進む上天草地域で、持続可能な医療提供体制を確保していくためには、形を変え出直しが必要なようです。しかし、どのように変化しても私たち看護部は、看護師の使命である地域住民の皆様への命・暮らし・尊厳を守る看護を提供してまいります。また、地域との連携をさらに深め信頼され、愛される病院であるために努力してまいります。本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新年のご挨拶

事務長 山川 康興



新年、明けましておめでとうございます。旧年中は当院の運営に多大なご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。この場お借りし、改めて御礼申し上げますとともに令和7年が皆様方にとりまして輝かしい1年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

さて、いよいよ令和7年のスタートとなります。本年は団塊の世代が後期高齢者となり医療や介護のニーズはピークを迎えると予想されており、一方で生産年齢人口は減少し、過疎が急速に進む天草地域では、今後、医療従事者の確保がさらに難しくなると考えられています。このような背景から、限られた医療資源を効率的に活用しながら、医療提供の質を維持すること

は大変重要であり、その大きな役割を果たすものが「地域医療連携」であることはご承知のとおりです。

現在、当院では地域医療支援部7名の職員が連携の要となるべく患者様や関係機関の皆様との調整役としてサポートさせていただいております。今後、過疎地域の医療の現場はさらに厳しいと予想されることから、支援部職員を中心に医療・保健・福祉・介護等に関わる皆様方としっかりとタッグを組めるよう努力を重ね、当院に与えられた役割を果たしていく所存でございます。

令和7年度も引き続き地域に信頼される病院を目指し、職員一同、一生懸命精進してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

編集後記

○あけましておめでとうございます。

旧年中は、当院・地域医療支援部とも、皆様方からの御紹介をいただき、ありがとうございました。

本年も引き続き、紹介頂く患者さんや紹介先の医療機関から帰って来る患者さんの迅速な受け入れ入院、各種介護・福祉サービスとの連携など、上天草及び天草地域での迅速で円滑な連携医療を目指していきたいと思っております。旧年に引き続き、何卒よろしくようお願い申し上げます。（細川）

1月 診療案内

※は、応援医師

	月	火	水	木	金	休診日
内科	和田 正文 小林 博 浦川 ゆめ子	和田 正文 平島 義彰 林田 夏南子	※岸川 秀樹 浦川 ゆめ子	和田 正文 細川 貴規 小林 博 ※高柳 宏史	細川 貴規 林田 夏南子 浦川 ゆめ子 (第2・4) ※松田 圭史 (第1・3・5)	
代謝内科	※阪口 雅司	—	—	平島 義彰	※小野 薫 (第3・5) ※大津 可絵 (第1・2・4)	
腎臓内科	—	—	細川 貴規	—	—	
循環器内科	脇田 富雄	脇田 富雄	小林 博	※山本 正啓	脇田 富雄	
外科	—	—	—	—	—	
小児科	船曳 哲典	※熊大	船曳 哲典	※熊大	船曳 哲典	
婦人科(午前/午後)	坂口 優子/ オンライン診療	休診/ オンライン診療	坂口 優子/ 休診	—	—	
※外来診療時間は9時から13時30分となります。(受付時間は8時30分～13時まで) ※オンライン診療は、再診の方のみ予約診療となります。						
整形外科	藤松 晃一 (千丈 実香)	※上原 悠輔	藤松 晃一 千丈 実香	藤松 晃一 (千丈 実香)	※鮎田 貴也	
※毎週火曜日・金曜日の診療開始は10時50分からとなります。						
耳鼻咽喉科	—	※熊大	—	※熊大	※熊大	1/31(金)
眼科	—	竹下 哲二 古島 京佳	竹下 哲二 古島 京佳	竹下 哲二 古島 京佳	竹下 哲二 古島 京佳	1/31(金)
※毎週月曜日の診療は休診となります。						
皮膚科	—	—	—	※宮下 梓	—	1/9(木)
泌尿器科	—	西 一彦	—	—	西 一彦	
※毎週金曜日の診療は完全予約制となります。						
超音波・ 内視鏡センター	石山 哲	石山 哲	※大野 健翔	林田 夏南子	※蔵野 宗太郎	
歯科・口腔外科	福田 敏博	福田 敏博	福田 敏博	福田 敏博	福田 敏博	
※午後は、13時～16時30分までの受付です。						
教良木診療所 (午後)	小林 博	千丈 実香	応援	応援	林田 夏南子	
御所浦診療所 (午前)	竹下 哲二	—	—	—	—	
栖本病院 (午前)	—	—	林田 夏南子	—	—	

※診療受付時間は午前8時30分～11時30分までです。

※脳神経外科は月2回(第2、第4水曜日)の午後2時より診療を行います。(予約制)

※診療案内は都合により変更となる場合があります。ご了承ください。